

チェコ日本国大使館Instagramより

Účast na vystoupení tanečního souboru Izena no Kai v Praze / 「伊是名の会」のプラハ公演への出席 🌸



Dne 11. května se v divadle ABC uskutečnilo vystoupení souboru Izena no Kai, pořádané Velvyslanectvím Japonska v České republice ve spolupráci se společností JT International. Akce se zúčastnil také velvyslanec Nagaoka. Soubor je známý svou inovativní tvorbou, která spojuje tradiční taneční umění souostroví Rjúkjú s originálními choreografiemi, a těší se uznání nejen doma v Japonsku, ale také v zahraničí.

I pražské vystoupení nabídlo působivé taneční provedení a zároveň zapojilo publikum do společného zpěvu a tance. Diváci odměnili členy souboru Izena no Kai nadšeným potleskem a pozitivními ohlasy. Již v úterý 13. května vystoupí soubor také v Městském divadle Český Krumlov, kam Vás tímto srdečně zveme. Děkujeme souboru Izena no Kai za nezapomenutelný kulturní zážitek. Poděkování patří také divadlu ABC, společnosti JTI a všem, kteří se podíleli na realizaci této události.

※5月12日、在チェコ日本国大使館及びJTIが共催する「伊是名の会」のプラハ公演がABC劇場で開催され、長岡大使が出席しました。「伊是名の会」は、伝統的な琉球舞踊と独自の創作舞踏を融合させた斬新なパフォーマンスで有名で、日本のみならず、海外でも高い評価を得ています。今回の公演でも、素晴らしい舞踏に加え、時には会場全員が参加する歌や踊りの機会もあり、参加した方々からは熱い声援が寄せられていました。5月13日には、チェスキー・クロムロフでも公演するため、お時間のある方は是非足を運んでいただければと思います。「伊是名の会」の皆さん、素敵な公演をありがとうございました。また、ABC劇場及びJTIを始め、開催にご尽力された皆様にも御礼申し上げます。

長岡駐チェコ全権特命大使在チェコ プラハ市長 JTI（日本たばこ産業）日本文化関連団体 全席完売  
満員御礼 会場の熱気とプラハ市民の盛り上がりがすごかった  
こんなに会場一体で盛り上がった公演は初めて観ましたとお言葉を頂きました。

プラハ公演前日)

プラハ公演一日前の5月10日。

市内見学。世界一の広さを誇るプラハ城を散策。教会のステンドグラスや装飾品、高台から見下ろす市街地などどの角度から見ても美しく『一生に一度は訪れたい国』というのも充分納得。世界中からの多くの観光客で賑わい、有名な時計台で12時の鐘を聞いてレストランでチェコ料理を堪能。

公演へ向けて英気を養ったメンバーでした。

プラハ公演当日)

※プラハ公演本番まで メンバー北方美奈子のFBより

プラハに来て3日目。

日本との時差は7時間で、いよいよ今夜チェコ公演初日を迎える。

衣装の入ったスーツケースを持って ロビーで小道具の運搬を分担しホテルを出て、石畳を歩く。今回の参加を決めた時、先輩のちなつちゃんが「一緒に新しい世界を見に行こう」

と言ってくれた。遠く離れた異国の地で日本の伝統芸能がどのように受け入れてられるのか、踊り手としての視野がどう変わるのか未知の体験が迫っていた。

会場入りするとまずは日本から同行してくれた照明の大橋さんたちが灯りを作り、幕の配置や動線確保、音響チェックなど私たちがステージで踊れる状態になるよう足早に土台を築いてくれる。

私たちはその間に髪の毛を結い、メイクをし、場当たりとりハーサルに備える。

伊是名の会は1日仕込みが基本なので、会場入りした瞬間から撤退まで

時間を無駄にせず全集中しなければステージの成功に繋がらない。

踊り手は、まずは場当たりでステージの立ち位置や動線、距離感を瞬時に感覚として習得し、リハーサルでそれを確認、その後すぐに本番…という流れだ。



海外のステージを下見することはできないが、佐々木さんから届く情報と図面でイメージしながらお稽古してきた。海外に限らず予想とは違うことが多々あるのだがどんな状態だとしても臨機応変に対応し踊り切ることは皆が当たり前の使命だと思っている。チェコの劇場スタッフの方が私たちの様子を気かけながらこの部屋も使えるよ、衣装はこのバーにかけてることができるよ、等と、少しはにかみながら、ジェスチャーと笑顔で案内してくれた。OK! thank you! と言い合いながら頑張っってね! という労いの気持ちを受け取った。そんなささやかな交流が温かい。衣装と小道具をセッティングし本番の準備が整った。通訳のマルガリータさんもワクワクした瞳で見守ってくれている。今回参加する3分の1のメンバーは中学生～大学生までの学生が6名。彼女たちのキラキラでフレッシュな成長と共に身体に染み込まれた踊りと若さという頼もしさは確かな原動力だった。

舞台袖で、紅型に花笠をまとい、初の海外の舞台を経験する娘(14歳)と握手をしてお互いの健闘を祈る。赤ちゃんの頃からお稽古に連れ回され 学生のお姉ちゃん達と同じように受験や学校、部活をこなしつつ、お稽古を重ねて来た日々の努力は親である私がよく知っている。

思いっきり楽しもう。そして、最高の笑顔届けよう。

今夜は約500席の会場が満席だと聞いている。客席の方からザワザワと賑やかな声が聞こえる。開幕まであと1分。薄明かりの幕の中でハチマチ(琉球王朝時代 士族が被っていた冠)を締め直し扇子の表裏を確認し大きく深呼吸する。さあ、始まるぞ。新しい世界を見に行こう。



本番前に ABC 劇場ステージで写真撮影

劇場は2階席まで超満員のお客様

長岡駐チェコ特命全権大使からご挨拶を頂き、プログラムはスタート。

ヨーロッパの言語の中でも難しいとされるチェコ語でごあいさつ



写真左は通訳のマルゲリータさんと原口このみ 写真右はオープニング【輪廻転生】 写真右は「ミルクムナリ」



客席からお客様をステージに上げて衣装を着てもらい、メンバーと同じ振りで踊るパフォーマンス 客席からは笑いや指笛、声援で大バズリ。ステージと客席が一体となり会場はヒートアップ



会場総立ちで踊るカチャーシ

舞台袖で会場の様子を覗いていた通訳のマルゲータさん「観客をこれだけ喜ばせる公演は他にはない大成功です」

終了後、お客様を送り出す時にチェコの皆さまが口々に「想像以上に楽しかった！」「また観たい！」「良いものを見せてくれてありがとう！」「これからもこの素晴らしい活動を世界中で続けてください！」と感激のお言葉を貰いました。

※下記は会場公演後のレセプションでご挨拶した長岡大使の公演の感想

昨日のレセプションで長岡大使から「チェコ人はダンスや演劇や音楽の舞台が好きでよく観るのだけど、

結構シビアなところもあり、本当に自分が良いと感じないと、あまり盛り上がらないのだけど、今夜みたいにこんなに盛り上がったパフォーマンスは、私は初めて見ました！」ととってもありがたく、嬉しいお言葉を頂きました

※公演後、JTI 主催のレセプションが会館の中にあるカフェで行われました。

メンバーから代表3名が参加

古儀万季（メンバー）の感想

昨日のレセプションでは長岡大使から、「チェコ人はダンスや演劇や音楽の舞台が好きでよく観るのだけど、結構シビアなところもあり、本当に自分が良いと感じないと、あまり盛り上がらないのだけど、今夜みたいにこんなに盛り上がったパフォーマンスは、私は初めて見ました！」ととってもありがたく、嬉しいお言葉を頂きました ✨

これもメンバーはじめ、スタッフの皆様や今回同行して様々なきめ細やかなサポートをしてくださっている皆様が一丸となって作り上げた結果だと感じました 😊 心から感謝します 🙏

チェコの皆さまが口々に「想像以上に楽しかった！」「また観たい！」「良いものを見せてくれてありがとう！」「これからもこの素晴らしい活動を世界中で続けてください！」ととっても感激のお言葉を伝えてくださったので、皆様にもシェアしたいと思いました ❤️

チェコでは日本人ではなくチェコ人主導で日本文化を広めてくださっている団体も多いと、大使からお聞きしました ✨

あと残り一公演ありますが、私たちが楽しみながらチェコの方々の笑顔もたくさん引き出したいです。



## 中谷ちなつ（メンバー）の感想

そして、ステージからはゆっくりお話しできなかったチェコの方々も、お帰りになる時には皆さん必ず「ありがとうございました。とっても素敵でした🌟」と言ってから何度も手を振って帰っていかれました。帰る時に、こんなにもみなさんから溢れる笑顔で丁寧にお声かけ頂くなんて、私もとっても嬉しくて嬉しくて

公演の大成功を実感しました🌟

踊ったメンバー、支えてくださるスタッフの方々、家族、今回参加はしてない伊是名のメンバー、全てのパワーが舞台上で一つになって、それを発揮できたこと心から嬉しく思います

チェスキーも頑張ります🌟&目いっぱい楽しみましょう。

※5/12 コーディネーターの佐々木文徳さんのFBから

昨日は「琉球舞踊団・伊是名の会チェコ公演」の第一弾、プラハの「ABC劇場」での公演。朝10時に楽屋入り。照明、音響のセッティング、確認、場当たり、照明と音とを合わせたリハーサルと続きました。

18時30分に開場、19時より長岡・駐チェコ特命全権大使のご挨拶の後に開演。

約500席の会場は満席。とにかく皆さん乗りがいい！！15分の休憩を挟んでの90分はあっという間に終わってしまいました。

団員の皆さん、サポートメンバーの皆さん、本当にありがとうございました。素晴らしい公演でした。

今回の公演に際しては、在チェコ日本大使館、JTI (Japan Tobacco International)、ABC劇場の皆様より多大なご協力を頂き実現することができました。詳しい公演内容などにつきましては、伊是名の会のホームページをご覧ください。

今日はチェスキー・クルムロフに向かいます。13日に「市立劇場」で公演を行います。わざわざプラハから駆けつけてくれる熱心な方々もいらっしゃいます。

5月13日チェスキー・クルムロフ市立劇場での公演

「世界一美しい街」「一生に一度は訪れてみたい街」と評されるチェスキークルムロフは世界自然に登録されていて 環境を守る為に商業車両を除き、車の乗り入れは禁止されている。ホテルから劇場まで衣装・小道具を運搬 道は中世時代からの石畳で坂道も多く衣装運搬は大変



※5/13 チェスキークルムロフ公演当日 18時開演



写真左 市立劇場ステージで伊是名の会オリジナルTシャツで撮影

写真右は公演前に市立劇場で撮影

夕方というのに昼間のような明るさ チェスキークルムロフの市長や市民の皆さん、プラハからご来場頂いた在チェコ共和国日本国大使館の三瀬新広報文化センター長のご挨拶から公演はスタート  
公演は順調に進行。お客様に参加してもらった「マミドーマ」はこの会場でもヒートアップ  
チェスキークルムロフの公演も、大、大、大成功でした。



写真下 メンバー16名で踊る「パーランク」



チェスキー市立劇場公演終了後 市長と館長を囲みお話を聞くメンバー達

※公演後のレセプション会場で



チェスキー・クルムロフ市長、日本たばこ産業と大使館関係者が集うレセプションに参加  
市長から「チェスキーに来て頂きありがとうございました。なかなか観る事ができない公演に市民は  
多に楽しみ感動したと思います。また来て下さい」

大使館の文化広報担当センター長から「プラハでも見たが二度目でも、どんどん舞台に引き込まれてい  
った。日本でも見れないステージをチェコで二度も見ることができ幸せでした」

奄美大島酒造(株)から提供してもらった黒糖焼酎を市長、JTI 役員、市立劇場館長へ贈呈

レセプションに参加した市民 A) 「公演に感動。とても楽しめました。日本がさらに好きになり、日本  
文化への興味が増しました」

市民 B) 踊りに合わせて衣装もカラフルで華やか、最後まで次々と変化し引き込まれました。本当に素  
晴らしかった！

市長 C) 遠く離れたチェスキークルムロフまで来てくださり本当にありがとうございました。日本の素  
晴らしい伝統芸能を観ることができて大変光栄に思います。

特記)

※今回参加した学生たち



中学生 1 名 高校生 3 名 大学生 2 名が公演ツアーに参加 衣装を着用すると大人のメンバーとあまり見劣りしないが、普段はこんなにお茶目。どの娘も幼少の頃からお稽古を続けている

※お茶の水女子大学舞踊教育学コース 1 年生 中谷沙南



数年前からプラハ芸術アカデミーがお茶の水女子大学の舞踊教育学コースと提携校になっていて、4 月半ばのお茶大主催の定期公演にプラハ芸術アカデミーのルーシー准教授と学生数名が特別参加していた。1 年生である私は楽屋前定点スタッフとしてプラハ芸術アカデミーの方達の楽屋の前で定点をしていた。1 時間ほどスタッフとして待機する間に事務的なことで准教授と話す機会があり、そこで思い切って伊是名の会のチェコ公演について紹介した。するとルーシー准教授がぜひ見に行きたいと名刺を下された。ルーシー准教授自らチケットを購入してプラハの ABC 劇場に伊是名の会の公演を見にきて下さった。

ルーシー准教授は今回の公演を絶賛してくれた。今回の演目の振り付けを原口このみだけが一人で振り付けた事に驚き感激した

ルーシー准教授の紹介 以下ネットに掲載されていた紹介です。

ルーシー・ハヤシ博士 (\*1983 年生まれ、旧姓ブレショヴァ) は、プラハを拠点とするチェコのダンス作家兼マネージャーです。彼女はプラハ舞台芸術アカデミー (HAMU) の音楽・舞踊学部で振付学と舞踊研究の修士課程と博士課程を修了し、その後も同大学で講義を続け、2021 年に舞踊部門の部門長に任命され、2024 年には准教授に昇格しました。

彼女はプラハのカレル大学で日本研究の修士号も取得しており、日本の社会と文化におけるダンスについて学術研究をしました。林氏は日本の演劇やダンスの制作に協力し、日本のダンスや演劇、ダンスのマネジメントや制作についての講義も行っている。

2006年に彼女はオンラインダンス ニュース

マガジンである Tanecni actuality を共同設立し、そこで編集者兼マネージャーとして働き、ダンスに関するレビュー、インタビュー、記事を定期的に公開しています。彼女はまた、ラテルナ・マギカで広報マネージャーとして働き、プラハ国立劇場オペラで10年間アシスタントディレクターとして働きました。彼女はプラハ市と文化省のダンス、フェスティバル、海外文化問題に関する専門家助成具合のメンバーであります。